

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2021年8月12日
【四半期会計期間】	第41期第1四半期（自 2021年4月1日 至 2021年6月30日）
【会社名】	アルコニックス株式会社
【英訳名】	ALCONIX CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 竹井 正人
【本店の所在の場所】	東京都千代田区永田町二丁目11番1号
【電話番号】	03（3596）7400
【事務連絡者氏名】	取締役専務執行役員コーポレート部門長 手代木 洋
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区永田町二丁目11番1号 山王パークタワー12階
【電話番号】	03（3596）7400
【事務連絡者氏名】	取締役専務執行役員コーポレート部門長 手代木 洋
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） アルコニックス株式会社 大阪支店 （大阪市中央区北浜二丁目6番18号 淀屋橋スクエア14階） アルコニックス株式会社 名古屋支店 （名古屋市東区武平町五丁目1番 名古屋栄ビルディング5階）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第40期 第1四半期連結 累計期間	第41期 第1四半期連結 累計期間	第40期
会計期間	自2020年 4月1日 至2020年 6月30日	自2021年 4月1日 至2021年 6月30日	自2020年 4月1日 至2021年 3月31日
売上高 (百万円)	48,095	36,944	214,987
経常利益 (百万円)	1,243	3,487	5,718
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	555	2,435	2,860
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	618	3,559	4,880
純資産額 (百万円)	40,974	46,400	43,372
総資産額 (百万円)	132,890	157,930	147,917
1株当たり四半期(当期)純利 益 (円)	21.82	97.26	113.60
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益 (円)	-	97.23	-
自己資本比率 (%)	30.2	28.9	28.9

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 第40期第1四半期連結累計期間及び第40期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第1四半期連結累計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(電子機能材)

当第1四半期連結会計期間より、非連結子会社でありましたHong Kong Anxex Electronic Material Co.,Ltd、同社子会社のNingde Anxex Electronic Material Co.,Ltd.、ALCONIX CASTLE METALS AND CHEMICALS SDN.BHD.、同社子会社のALCONIX CASTLE METALS AND CHEMICALS VIETNAM CO.,LTDは重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

なお、当第1四半期連結会計期間において、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」の「4.報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、2021年6月24日に提出しました有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて、新たに発生したリスク及び重要な変更はありません。

なお、有価証券報告書に記載した「自然災害や新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う当社グループへの影響について」に係るリスク項目について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大における今後の推移によっては、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があり、引続き動向を注視する必要があることから、当第1四半期連結累計期間においては判断を据え置いております。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第1四半期連結累計期間における世界の経済環境は、新型コロナウイルス感染症の変異株による再拡大の懸念があるものの、いち早くコロナ禍を脱した中国で景気回復が加速し、米国や欧州においても政府主導による景気刺激対策及びワクチン接種の進展により経済活動の正常化が進みました。

我が国の経済は、ワクチン接種開始に伴う企業収益及び個人消費の本格的な回復が期待されるものの、相次ぐ首都圏、関西圏等への緊急事態宣言の発令により先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社グループを取巻く業界は、自動車関連分野においてはEV化、軽量化、自動運転技術に関係する素材及び部品の需要が加速度的に多様化しており、特に前連結会計年度後半以降にそれらの需要が急速に回復したため、関連の素材・部品の生産及び販売は共に好調に推移いたしました。半導体・電子部品関連では、IoT、AI等におけるデータ通信量の増加や自動車のEV化と5Gに適した製品や機器の生産量の増大、さらにデジタルシフトによる経済活動の広がりやリモートワークの浸透により、関連素材、IT機器や半導体部材の需要が高水準で推移いたしました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、半導体、情報通信関連向け需要の増加により半導体製造装置向け等の加工部品が収益に貢献し、商社流通においてもスマートフォン等IT機器向け電子・電池材料の取扱いが好調でありました。また国内外の自動車向け需要の急速な回復に伴い、金属精密プレス部品、及び小型モーター向けカーボンブラシは出荷が急増したことにより収益改善が進みました。また、商社流通における非鉄原料、アルミ圧延品並びに伸銅品等の取扱いにおいても、自動車関連需要の増加に伴い前年同期の落ち込みから一転して回復いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における連結経営成績は、売上高36,944百万円（前年同期は48,095百万円）、営業利益3,046百万円（前年同期は1,157百万円）、経常利益3,487百万円（前年同期は1,243百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益2,435百万円（前年同期は555百万円）となりました。

なお、当社グループは2022年3月期の期首より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日公表分。以下、「収益認識会計基準」という。）等を適用しております。このため、経営成績に関する説明においては、連結売上高及び連結段階利益の前年同期比（％）を記載しておりません。収益認識会計基準等の適用の詳細については「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（会計方針の変更）」をご参照ください。

当第1四半期連結累計期間におけるセグメントの業績は次のとおりであります。また、各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値であります。

・商社流通 - 電子機能材事業

スマートフォン・タブレット端末向け部材は、新型コロナウイルス感染症により制限されていた経済活動が段階的に回復する中、前年同期に比べ好調でした。また、二次電池関連部材及び環境関連部材の需要は、リモート・テレワークが進行し、そこから派生する需要を背景として高水準の受注が継続しておりますが、一部の需要家においてグローバルな半導体不足が生産を減速させる要因となり先行き不透明感を醸し出しております。レアメタル・レアアース等も自動車関連需要の回復基調を取り込み、売上・利益とも増加となりました。なお、前述の取扱量の回復等により、セグメント利益は大きく改善いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は8,697百万円（前年同期は12,635百万円）、セグメント利益は1,031百万円（前年同期は239百万円）となりました。

・ 商社流通 - アルミ銅事業

製品分野においては、自動車のEV化・軽量化が加速し、アルミ・銅を主とする非鉄金属製品の需要はさらに増加傾向にあります。一方、半導体不足による自動車の生産調整が部品並びに素材メーカーへも波及し、製品需要に先行き不透明感が出てきております。建築需要は回復基調となりつつあり、関連部材の取扱いは増加いたしました。また、当第1四半期連結累計期間より当セグメントに加わったチタン・新素材の分野においては、主たる用途である航空機生産の低迷が続いているため、その取扱いは低調でありました。原料分野においては、銅市況が2021年5月に史上最高値を更新する等、指標相場が高騰しております。このため、コロナ禍での巣ごもり消費の増加等による家電製品向けの需要増やEV化に伴う自動車関連需要の急増により、主力の銅スクラップ、アルミスクラップ、及びアルミ再生塊の取扱いが好調でした。

この結果、当セグメントにおける売上高は14,267百万円（前年同期は25,610百万円）、セグメント利益は1,008百万円（前年同期は245百万円）となりました。

・ 製造 - 装置材料事業

めっき材料は景気回復が著しい米国及び中国の両拠点において、旺盛な需要拡大が続く電子材料、及び自動車向けの出荷が好調でありました。また、プレーキ摩擦材向けカシュー樹脂製品、小型モーター向けカーボンブラシ、及び溶接材料は国内外における自動車需要の急速な回復に伴い、出荷は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた前年同期に比べ順調な滑り出しとなりました。一方、非破壊検査及びマーキングについては国内での鉄鋼向け大型マーキング装置等の出荷が業績に貢献いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は8,080百万円（前年同期は5,980百万円）、セグメント利益は352百万円（前年同期は7百万円のセグメント損失）となりました。

・ 製造 - 金属加工事業

精密研削加工部品は逼迫する半導体部品の需給動向に懸念があるものの半導体実装装置需要は堅調であり、出荷は前年同期水準で推移いたしました。また精密切削加工部品においてはリモートワークの拡大や自動車関連需要の堅調等に伴う半導体需要の増加により、半導体製造装置向けの出荷が堅調でありました。また、金属精密プレス部品は、前年同期での新型コロナウイルス感染症の影響による落ち込みから急回復し、国内外における旺盛な自動車向け需要を取り込み出荷は高水準で推移いたしました。なお、空調機器向け金属加工部品は国内の空調関連向け出荷が堅調に推移いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は7,415百万円（前年同期は5,054百万円）、セグメント利益は1,078百万円（前年同期は751百万円）となりました。

・ 財政状態

a. 流動資産

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は116,147百万円であり、前連結会計年度末比9,543百万円の増加となりました。主な内訳は、受取手形及び売掛金の増加4,221百万円、棚卸資産の増加3,514百万円、並びに現金及び預金の増加1,856百万円であります。

b. 固定資産

当第1四半期連結会計期間末における固定資産は41,782百万円であり、前連結会計年度末比469百万円の増加となりました。主な内訳は、連結子会社における有形固定資産の取得、及び連結範囲の拡大等による有形固定資産、及びのれんを含む無形固定資産の増加1,359百万円、及び投資その他の資産の減少890百万円であります。

c. 流動負債

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は85,884百万円であり、前連結会計年度末比7,872百万円の増加となりました。主な内訳は支払手形及び買掛金の増加3,584百万円、短期借入金の増加2,525百万円、コマーシャル・ペーパーの増加999百万円、及び1年以内返済予定の長期借入金の減少309百万円であります。

d. 固定負債

当第1四半期連結会計期間末における固定負債は25,644百万円であり、前連結会計年度末比888百万円の減少となりました。主な内訳は長期借入金の減少623百万円、及び社債の減少74百万円であります。

e. 純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産は46,400百万円であり、前連結会計年度末比3,028百万円の増加となりました。主な内訳は利益剰余金の増加1,742百万円、為替換算調整勘定の増加1,371百万円、その他有価証券評価差額金の減少348百万円、及び繰延ヘッジ損益の増加48百万円であります。

・経営成績

2022年3月期の期首より、収益認識会計基準等を適用しております。これに伴い、当第1四半期連結累計期間における売上高は、前第1四半期連結累計期間と比較して大きく減少しております。そのため、当第1四半期連結累計期間における経営成績に関する説明は、前第1四半期連結累計期間と比較しての増減額及び前年同期比(%)を記載しておりません。

a. 売上高

売上高は、テレワーク等のオンラインによる経済活動の拡大による半導体、電子材料関係、及び自動車を中心とした世界的な需要拡大によりグループ全体で好調に推移いたしました。取扱品並びに製品別で見ると、商社流通では、スマートフォン・タブレット端末向け電池・電子材料、磁性材向けレアアースの取扱が増加した他、前年同期では需要が急減したアルミ圧延品、伸銅品、アルミ再生塊、銅スクラップ等の非鉄原料の取扱いも回復いたしました。

製造では半導体実装装置向け精密研削加工部品、通信、IT向け精密切削加工部品の出荷が堅調に推移した他、めっき材料、金属精密プレス部品、及び小型モーター向けカーボンブラシ等の出荷は景気回復により市場が急拡大する自動車需要を取り込み、大きく落ち込んだ前年同期に比べ好調でありました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は36,944百万円(前年同期は48,095百万円)となりました。

b. 売上総利益

商社流通及び製造の収益が共に好調であったことから、当第1四半期連結累計期間における売上総利益は6,535百万円(前年同期は4,243百万円)となりました。

c. 販売費及び一般管理費

取引拡大に伴う営業費用の費消が前年同期に比べ大きく増加し、当第1四半期連結累計期間における販売費及び一般管理費は3,488百万円(前年同期は3,085百万円)となりました。

d. 営業利益

上記の結果、当第1四半期連結累計期間における営業利益は3,046百万円(前年同期は1,157百万円)となりました。

e. 営業外収益、営業外費用

受取配当金の増加、及び為替差益等により、営業外収支(営業外収益-営業外費用)は441百万円の収入超となりました(前年同期は85百万円の収入超)。

f. 経常利益

上記の結果、当第1四半期連結累計期間における経常利益は3,487百万円(前年同期は1,243百万円)となりました。

g. 特別利益、特別損失

投資有価証券売却益等の特別利益39百万円を計上する一方、固定資産除却損等の特別損失2百万円を計上いたしました。

h. 親会社株主に帰属する四半期純利益

税金等調整前四半期純利益3,525百万円から法人税等1,057百万円、連結子会社15社における非支配株主に帰属する四半期純利益33百万円を差引き、当第1四半期連結累計期間における親会社株主に帰属する四半期純利益は2,435百万円(前年同期は555百万円)となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ研究開発活動にて重要な記載事項はありません。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通しについて重要な変更はありません。

(5) 経営者の問題認識と今後の方針について

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの経営者の問題認識と今後の方針について重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	64,000,000
計	64,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (2021年6月30日)	提出日現在発行数 (株) (2021年8月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	25,943,100	25,968,300	東京証券取引所 (市場第一部)	権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる株 式であります。 単元株式数は100株であり ます。
計	25,943,100	25,968,300	-	-

- (注) 1. 提出日現在の発行数には、2021年8月1日からこの第1四半期報告書提出日までの新株予約権の権利行使により発行された株式数は、含まれておりません。
2. 当社の取締役(社外取締役を除く)5名及び取締役を兼務しない執行役員3名に対して、2021年8月6日を払込期日とする譲渡制限付株式報酬として新株を割り当てる方法により25,200株発行いたしました。当該発行は、譲渡制限付株式報酬としての新株発行に伴う金銭報酬債権の現物出資37百万円により行われたものであります。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減 額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
2021年4月1日~ 2021年6月30日	-	25,943,100	-	3,006	-	2,049

- (注) 2021年8月6日を払込期日とする譲渡制限付株式報酬としての新株発行により、第1四半期報告書提出日現在、発行済株式総数が25,200株、資本金及び資本準備金がそれぞれ18百万円増加しております。

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2021年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2021年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 907,200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 25,029,300	250,293	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 6,600	-	1単元(100株)未満の株式であります。
発行済株式総数	25,943,100	-	-
総株主の議決権	-	250,293	-

(注)「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式7株が含まれております。

【自己株式等】

2021年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
アルコニックス株式会社	東京都千代田区永田町二丁目11番1号	907,200	-	907,200	3.50
計	-	907,200	-	907,200	3.50

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2021年4月1日から2021年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	27,048	28,904
受取手形及び売掛金	49,752	53,973
商品及び製品	20,818	23,647
仕掛品	3,362	3,765
原材料及び貯蔵品	2,088	2,371
その他	4,174	4,188
貸倒引当金	640	702
流動資産合計	106,604	116,147
固定資産		
有形固定資産	22,845	24,313
無形固定資産		
のれん	2,548	2,432
その他	3,122	3,129
無形固定資産合計	5,671	5,562
投資その他の資産	2 12,796	2 11,905
固定資産合計	41,313	41,782
資産合計	147,917	157,930
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	34,418	38,002
短期借入金	29,109	31,635
コマーシャル・ペーパー	2,999	3,999
1年内返済予定の長期借入金	5,878	5,569
1年内償還予定の社債	149	149
未払法人税等	866	1,005
賞与引当金	1,038	1,205
その他	3,549	4,316
流動負債合計	78,011	85,884
固定負債		
社債	475	400
長期借入金	20,509	19,885
役員退職慰労引当金	537	431
退職給付に係る負債	917	936
長期未払金	174	133
その他	3,918	3,857
固定負債合計	26,533	25,644
負債合計	104,545	111,529

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,006	3,006
資本剰余金	2,416	2,416
利益剰余金	34,352	36,095
自己株式	1,129	1,129
株主資本合計	38,646	40,389
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,761	2,412
繰延ヘッジ損益	46	1
為替換算調整勘定	1,438	2,810
その他の包括利益累計額合計	4,153	5,224
新株予約権	51	54
非支配株主持分	520	731
純資産合計	43,372	46,400
負債純資産合計	147,917	157,930

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
売上高	48,095	36,944
売上原価	43,852	30,409
売上総利益	4,243	6,535
販売費及び一般管理費	3,085	3,488
営業利益	1,157	3,046
営業外収益		
受取利息	16	11
仕入割引	3	3
受取配当金	181	304
為替差益	-	153
不動産賃貸収入	19	21
持分法による投資利益	8	-
その他	82	133
営業外収益合計	312	628
営業外費用		
支払利息	131	120
売上割引	0	1
為替差損	50	-
手形売却損	4	7
不動産賃貸原価	4	4
持分法による投資損失	-	3
その他	35	50
営業外費用合計	227	187
経常利益	1,243	3,487
特別利益		
固定資産売却益	0	3
新株予約権戻入益	0	-
投資有価証券売却益	-	24
助成金収入	12	11
その他	-	0
特別利益合計	12	39
特別損失		
固定資産売却損	0	0
固定資産除却損	0	1
投資有価証券評価損	44	-
その他	0	0
特別損失合計	45	2
税金等調整前四半期純利益	1,210	3,525
法人税等	637	1,057
四半期純利益	573	2,468
非支配株主に帰属する四半期純利益	18	33
親会社株主に帰属する四半期純利益	555	2,435

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
四半期純利益	573	2,468
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	522	348
繰延ヘッジ損益	104	48
為替換算調整勘定	369	1,358
持分法適用会社に対する持分相当額	3	32
その他の包括利益合計	45	1,090
四半期包括利益	618	3,559
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	610	3,506
非支配株主に係る四半期包括利益	8	53

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第1四半期連結会計期間より、非連結子会社でありましたHong Kong Anxex Electronic Material Co.,Ltd、同社子会社のNingde Anxex Electronic Material Co.,Ltd.、ALCONIX CASTLE METALS AND CHEMICALS SDN.BHD.、同社子会社のALCONIX CASTLE METALS AND CHEMICALS VIETNAM CO.,LTDは重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、当社グループにおいては、自ら財を調達して顧客に提供する履行義務を負う在庫取引を本人取引として従来通り総額で、仕入先から顧客に財が円滑に提供されることを手配する履行義務を負う直送取引を代理人取引として純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高が34,332百万円、売上原価が34,332百万円それぞれ減少しております。また当第1四半期連結会計期間の利益剰余金期首残高に反映されるべき累積的影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う会計上の見積りについて)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の当社グループに与える影響等を含む仮定について重要な変更はありません。

(表示方法の変更)

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「屑売却益」は金額の重要性が乏しくなったため、当第1四半期連結累計期間より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替を行っております。

この結果、前第1四半期累計期間の四半期連結損益計算書において、「営業外収益」に表示していた「屑売却益」6百万円、「その他」75百万円は、「その他」82百万円として組み替えております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
手形流動化に伴う買戻し義務	350百万円	395百万円
輸出受取手形割引高	56百万円	130百万円
受取手形裏書譲渡高	0百万円	0百万円

2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
投資その他の資産	103百万円	103百万円

3 コミットメントライン契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行とコミットメントライン契約を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
コミットメントラインの総額	5,000百万円	5,000百万円
借入実行残高	-百万円	-百万円
差引額	5,000百万円	5,000百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)
減価償却費	777百万円	830百万円
のれんの償却額	159百万円	157百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月24日 定時株主総会	普通株式	538	21	2020年3月31日	2020年6月25日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月23日 定時株主総会	普通株式	525	21	2021年3月31日	2021年6月24日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	商社流通		製造		
	電子機能材	アルミ銅	装置材料	金属加工	
売上高					
外部顧客への売上高	11,727	25,422	5,927	5,017	48,095
セグメント間の内部売上高又は振替高	907	187	52	37	1,185
計	12,635	25,610	5,980	5,054	49,280
セグメント利益又は損失()	239	245	7	751	1,228

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,228
セグメント間取引消去	14
四半期連結損益計算書の経常利益	1,243

当第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	商社流通		製造		
	電子機能材	アルミ銅	装置材料	金属加工	
売上高					
顧客との契約から生じる収益	7,665	13,969	7,965	7,343	36,944
外部顧客への売上高	7,665	13,969	7,965	7,343	36,944
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,032	298	114	71	1,518
計	8,697	14,267	8,080	7,415	38,462
セグメント利益	1,031	1,008	352	1,078	3,471

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,471
セグメント間取引消去	16
四半期連結損益計算書の経常利益	3,487

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第1四半期連結会計期間において、Hong Kong An dex Electronic Material Co.,Ltd、同子会社のNingde An dex Electronic Material Co.,Ltd.、ALCONIX CASTLE METALS AND CHEMICALS SDN.BHD.、同子会社のALCONIX CASTLE METALS AND CHEMICALS VIETNAM CO.,LTDを連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「電子機能材」のセグメント資産が、1,894百万円増加しております。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計方針の変更)に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の「電子機能材」の売上高は10,288百万円減少、「アルミ銅」の売上高は23,944百万円減少、「装置材料」の売上高は99百万円減少しております。

また当第1四半期連結会計期間から一部の組織についてセグメント区分を変更しております。

管理区分を見直したことにより、チタン・新素材部及びALCONIX EUROPE GMBHは「電子機能材」から「アルミ銅」に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	21円82銭	97円26銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	555	2,435
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	555	2,435
普通株式の期中平均株式数(千株)	25,453	25,035
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	-	97円23銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	-	6
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年8月11日

アルコニックス株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	狩野 茂行	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	井尾 稔	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	金澤 聡	印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアルコニックス株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2021年4月1日から2021年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アルコニックス株式会社及び連結子会社の2021年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。